

## ふるさとの山々を思う

今年5月の連休明けに、JAG 国際エナジー（株）から二つの大型風力発電建設の「計画段階環境配慮書」が、示された。一つは、那賀・海部・安芸風力発電建設計画で、徳島県南部の海部川源流部の槇木屋谷を含む、湯桶丸から吉野丸、鰻轟山、霧越峠にかかる稜線（総区域面積4541ha）に、全高136~161m、ローター径103mの巨大な風車を34基建設する計画。

もう一つは、那賀・勝浦風力発電建設計画で、勝浦郡と那賀郡の郡境の八重地峠、竜峠、美杉峠、鷲敷竜王山にかけての稜線（総区域面積2555ha）に上記の巨大風車を36基設置し、両方合わせて総出力192,000kwの風力発電事業を実施するため、徳島県に対し、今回の「計画段階環境配慮書」を提出したのである。

6月に環境影響評価の審査会から答申が示され、その答申に基づいた県知事意見が、上記会社と環境省と経産省に提出された。配慮書は「生物の生息リストに四国に生息しないはずの種が記載されるなど不正確な記述や欠落が多く、」信用性に欠ける内容。両計画地にはジンリョウユリやクマタカ、ヤマネ、カモシカやツキノワグマ等の希少な動植物の生育・生息している県内屈指の生態系を有する。那賀川、勝浦川、海部川などの源流の森があり、大事な水環境でもある。この事業の実施によって水質への影響や土砂崩れ、斜面崩壊などの災害の危険性もある。多くの大型風車を尾根まで搬入する道路についても大規模な山の改変を要し、尾根に大量のコンクリートを流し込む。耐用年数20年。その後の撤去は？責任は？果たして私たちは、これを受け入れられるのだろうか？この環境影響評価の主務大臣は経産大臣であり、エネルギー事業を推進している官庁である。これらの事業について環境配慮の観点から撤退も含めた検討がされるか、大いに疑問である。

「国破れて山河在り」山河も無くして、人は生きていけるのだろうか？

藤永知子

## 樋門から見える吉野川

三ツ合橋から吉野橋までの間いくつかの製材所があり、新町川の支流には切り出された木材が筏のようにどこまでも昔は続いていました。大人に叱られながらも川が遊び場で、近所の幼馴染のお兄ちゃんたちに交じり網を持って小魚やエビをすくったり、石投げを教えてもらったり、一人でいる時も網を持って川で遊んでいた遠い記憶が今でも鮮明に蘇ります。父の趣味が釣りだったので休みには一緒に船に乗せてもらい小学生までは釣りを楽しんでいました。城之内高校のグラウンド横には船がたくさん繋がれそこに樋門があります。古い時の樋門は素焼きっぽいレンガ造りで、樋門のトンネル内に入ると船のエンジン音が甲高く響き、船を操る父が吉野川を見据える顔が頼もしく、トンネルを抜けるとこれから冒険が始まるみたいなドキドキ感を釣りに行くときにいつも抱いていました。樋門から船で吉野川に出る時の広がる風景が私は大好きでした。また、夏の焼けるような日差しを浴びて船で帰る時は樋門の中はヒンヤリとして異空間に連れて行かれたように感じる不思議な場所でもあったのです。

シジミ、アサリの貝拾い「雛祭り」の時には潮干狩りをして蛤を取って澄まし汁にし、秋にはアジを釣りに行って姿寿司に、冬にはハゼの天ぷら、素焼きにして出汁、ボラは七輪で味噌焼きにと豊かな吉野川から命をいただいてきました。私はボラのへそ（胃の一部）を何個も串刺しにして塩焼きにして独り占めし、姉に叱られたのも今では笑える懐かしい思い出です。

吉野川橋を渡る度に、この川のどこかで父が釣り糸を垂れているのではと探してしまう。今では亡き父を思い出すのが吉野川となっているのです。

山橋 潔子



## ～吉野川礼讃19～

# 外来種雑感

コロナ禍による、世界の変化は著しい。  
しかし、考えてみれば、カミュ「ペスト」に代表される様な病禍は、洋の東西を問わず歴史の中に何度か繰り返されてきたものである。

江戸期の「はやりやまい」天然痘では疫神(病)から逃れるためには赤いものを身に着けるとよいとされた。親は子供に赤い腹かけさせたという。赤は魔除け聖なる色。

…コロナウィルスは中国武漢より来たものである…

コロナ禍から、あまりよろしくない徳島の変化。  
吉野川河口域に生息しているものとしてナルトサワギクの繁茂に、気づいた。

ナルトサワギクは「ナルト」と冠されるように、日本では鳴門市瀬戸町海浜の広大な埋め立て地1976年に見つけられ、特定外来生物と認定された黄色の花である。幼いころに、峠を越えて行った日出(ひうで)海岸の美しさが印象的であっただけに、無意味な埋め立て地にその花が広がるのは哀しかった。今日では、この開発は百害あって一利なし、海を壊しただけであった。

その花を知ってから2.3年後、市街地のマーケットで発見した。そして去年には、徳島空港を黄色く染めていて、慄然とした。海岸線に沿って南下し、どんどん徳島にせまっていた。国交省主催の外来種駆除の船で、河口中州にも渡って草ぬきをしたこともあった。でももう、今年は吉野川の土手にもたくさん見られるようになってしまった。外来種のズウズウしさ…どこまで溯上するのか。

そうそう、紫の美しい(とってしまった)クサフジもアカツメグサも子供のころの吉野川にはなかった植物。



ナルトサワギク (徳島県)  
沢山の種を落とし根も張っていく

グローバル化が提唱され、空も海も人が行き交い、独自性が担保されることもなくなりつつある。コロナウィルスも、海から空から行き交い蔓延するのも無理のないことと知る。

東流する吉野川は、夕刻に西方を臨むと真っ赤な夕景が美しい。

この美しい夕景は徳島を浄化している。

河野真理



『鍾馗図』(葛飾北斎 図)  
皆の知識 ちょっと便利帳より



## おいしい吉野川

# ドテホリ

土手掘り? 変わった呼び名? カニである。強力な爪、硬い甲羅、春に接岸し、石垣や沈木の下の泥に1m以上の横穴を掘り昼間は奥に潜み、夜には出て来て穴の口で獲物を待ち構える。

特に甲羅の前端はノコギリ状に尖って外敵に襲われにくくなっている。爪は太く挟む力は強力で指等を挟まれると、簡単に皮膚が切れ、しかも押し潰した様な傷でとても痛い!

TVで見る西表島等南の島、マングローブの森、泥に深く潜って棲むノコギリガザミと同じ種と思うが、確かめたわけではない。

茹でたり、蒸して頂くと濃厚な味で、しっかりした歯応えは姿から想像した通り。ハンマー片手に殻を割り皆で食べるとサイコー。

鍋料理にも合うと思うが、吉野川では冬には取れないため、鍋料理で食べたことが無い。しかし旨い。

凝った料理は不要。

そうだ、今度はみそ汁に挑戦しよう。



美味しい吉野川  
ごちそうさま

さちのちち

## イベントお知らせ

### 報告 (2019~2020年)

| 月日     | 行事      | 内容          |
|--------|---------|-------------|
| 8.9月   | 市民調査    | シオマネキ、チガニ調査 |
| 9月8日   | 総会      | 県民プラザにて開催   |
| 10月26日 | ウラギク観察会 | ひっそりと咲いています |
| 8月29日  | 市民調査    | チガニ調査       |

### 今後の予定 (2020~2021年)

| 月日    | 行事           | 内容                  |
|-------|--------------|---------------------|
| 9月    | 総会           | 書面議決(郵送)で行います       |
| 9.10月 | お月見会         | 場所：沖洲?              |
| 10月末  | ウラギク鑑賞会      |                     |
| 6月    | 助任干潟観察会 予定   | 助任干潟で遊ぼう            |
| 7月    | 吉野川河川一斉清掃 予定 | 国交省徳島7月の河川愛護月間行事の一環 |

会員募集中 会費：1口1,000円

- お問い合わせ&お申し込みは事務局まで
- 振込先：ゆうちょ銀行  
吉野川ラムサールネットワーク  
口座番号 01640-6-52973

吉野川ラムサールネットワーク

- 事務局 藤永知子
- Tel：090-7268-9448
- Email：taikazann@hotmail.com
- HP：<http://www.yoshinogawa-ram.net>
- facebook 吉野川ラムサールネットワーク